

## 別添資料 4 - 4 - 2 建築非構造部材に関する耐震安全性確保の検討方法

建築非構造部材に関する耐震安全性確保の検討は、次のとおりとする。

1. 設計用水平地震力は、次式による。

$$F_H = K_H \cdot W$$

$$K_H = Z \cdot K_S$$

$F_H$ : 設計用水平地震力(kN)

$K_H$ : 設計用水平震度

$K_S$ : 設計用標準水平震度

$Z$ : 地域係数 (1.0とする。)

$W$ : 建築非構造部材の重量(kN)

表 建築非構造部材の設計用標準水平震度 ( $K_S$ )

場 所	耐震安全性の分類	
	機能の停止が許されない室、 A類施設の外部及び特定室	一般室及びB類施設の外部
上層階 屋上及び塔屋	1.0	1.0
中間階	1.0	0.6
1階及び地下階	0.6	0.4

(注) 上層階の定義は、次のとおりとする。

2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階とする。

平屋建の場合は、1階及び地下階の値を用いる。

2. 設計用鉛直地震力は、次式による。

$$F_V = K_V \cdot W$$

$$K_V = 1/2 \cdot K_H$$

$F_V$ : 設計用鉛直地震力(kN)

$K_V$ : 設計用鉛直震度

3. 設計用標準水平震度は、特別の調査又は研究の結果に基づき算出する場合を除き、上表による。